

### 国語

平均正答数は、全国平均と比べてやや低く、県平均とはほぼ同等の結果でした。

「話すこと・聞くこと」の力をみる問題は約75%の正答率、「読むこと」の力をみる問題は約45%の正答率で、どちらも県平均とほぼ同等でした。

「書くこと」の力をみる問題は、全国平均とほぼ同等で、県平均よりやや高い結果でした。理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率が県平均を5%上回る結果でした。

「言葉の特徴や使い方」の力をみる問題では、文中の主語と述語を捉える問題で、全国平均と比べて正答率が8%以上下回る結果でした。一方で漢字の問題は、正答率が県平均とほぼ同等でした。「言葉の特徴や使い方」の力のうち、文章の構成を捉える力に課題があると云えます。

どのような問題形式であっても、無回答率が全国平均より高くなる傾向が見られ、問題に取り組む姿勢に課題が残りました。

### 算数

平均正答数は、全国平均・県平均とはほぼ同等の結果でした。全体的に県の状況と同様の傾向が見られます。変化と関係の問題とデータ活用の問題の正答率が74%と最も高く、次いで測定が72%、数と計算が61%、図形が57%と最も低い結果となりました。

個々の問題について見てみると、二等辺三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ問題の正答率が45%と低く、課題が認められました。

棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題の正答率は90%、速さと道のりを基に時間を求める式をたてたり、条件に合う時間を求めたりする問題の正答率が85%と高かったです。

記述式の問題は、他の形式の問題と比べて正答率が低く、求め方の説明や解答の理由を記述することに課題が残りました。

無回答率はほとんどの問題で全国平均・県平均と同等でした。国語と比較して、あきらめずに粘り強く解答する姿勢が身につけています。

## 小牧市の分析まとめと対策について【小学校】

令和3年10月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

### 本年度の分析にあたって

8月31日、文部科学省より本年度の学力・学習状況調査の結果が公表されました。

テレビ・新聞等では、愛知県は国語科の正答率が全国平均を下回る結果だったと報道されました。しかし、全国と愛知県の差は1問分も開いてはいません。公表された数字の高低だけを比較するのではなく、子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えます。

### 国語

- 「言葉の特徴や使い方」の指導を充実させます。主語と述語の関係を学ぶ学習内容は、1・2年生から出てきます。主語と述語、修飾語と被修飾語などの関係を問う場面を多く授業に取り入れ、文章の構造を正確に理解する力を育てていきます。
- 「読むこと」の指導に当たっては、文章中の言葉だけではなく、文章中の表やグラフの意味にも着目できるように、さらに指導を工夫します。
- 少なくとも、選択式の問題については空欄にせず解答ができるように、問題文を根拠に正解を見つける考え方だけでなく、不正解を見つける考え方を指導し、粘り強く問題に取り組む力を育てていきます。

### 算数

- 基礎的・基本的なきまり、計算の方法など、それぞれの領域の基礎・基本となる事柄の定着を図るよう指導を工夫します。
- 具体物やICT機器を効果的に活用し、数量関係や図形の様子を視覚的に捉えさせることで、問題解決の見通しを持たせるとともに、学びへの意欲を高めます。
- 問題の考え方・解き方について、仲間に説明したり仲間の説明を聞いたりする機会を多く設定し、よりわかりやすい説明の仕方や効率的な解き方について考え、表現できる力を伸ばします。
- 正誤にとらわれず、どこでどのようにつまづいているのかを考え、授業の工夫に生かします。

### 全般

- 子ども同士の関わり合いを大切に「学び合う学び」の授業に継続して取り組み、安心して学びに向かうことができる人間関係を構築するとともに、昨年度から完全実施された新学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善を図ります。
- 自ら学ぶ力を伸ばすため、子ども自身が何ができて何ができないか、自分自身をふり返り課題を見つけていく力を育てます。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指し、子どもたちに適切・適量の宿題を与えるなど、望ましい家庭学習の習慣を身につけるための指導の工夫をします。

## 質問紙調査から

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校中、

勉強について不安を感じたか 当てはまる 33.1%

計画的に学習できたか 当てはまらない 12.7%

規則正しい生活を送ったか 当てはまらない 13.7%

昨年度の休校中は、思うように学ぶことができず、不安を感じたり生活のリズムが乱れたりした児童が少なからずいました。子どもたちの学びを止めないように、今後も様々な取組を行っていきます。

いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか

「当てはまる」と答えた児童が85.3%と全国平均・県平均を上回っており、小牧市の児童の規範意識の高さが表れています。

自分にはよいところがあると思うか 肯定的 72.5%

自己肯定感が低い児童がいることがうかがえます。子どもたち一人一人に寄り添い、よいところを積極的に評価していきます。

朝食を毎日食べているか 肯定的 93.2%

毎日同じくらいの時刻に寝ているか 肯定的 77.1%

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的 89.4%

全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での基本的な生活習慣は守られていることが分かります。

国語・算数の授業が好きか 肯定的 52.9%・65.5%

国語・算数の授業はよくわかるか 肯定的 76.8%・79.3%

国語と算数を比較すると、算数が好きという児童がかなり多いです。好きであれば理解も深まります。国語についても、より興味がわくような授業作りを工夫していきます。

自分で計画を立てて家で勉強しているか 肯定的 65.3%

3分の1の児童が計画的に学習できていないようです。単に宿題を出すだけでなく、取り組み方の指導を工夫して、計画性を育てるとともに、学力の向上につなげていきます。

5年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか ほぼ毎日26.1%、週1回以上37.5%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて、2倍以上の高い値でした。デジタル教科書やタブレット型端末などを、日常的に授業で使用していることが分かります。ICT機器の有効的な活用方法の研究を進め、さらに使用率を高めていきます。

新聞を読んでいるか

「毎日読む」または「週に1~3回読む」と回答した児童は12.2%で、全国平均・県平均よりもやや低い結果でした。新聞を読む回数が多い生徒ほど、平均正答率が高くなるという相関関係が全教科で示されました。新聞や本を読むことは、知識や語彙力を増やしたり、伝わりやすい文章構成や表現を学んだり、想像力を高めたりと、様々なよい学習効果があります。家庭でも、家庭学習の習慣とともに、書面を読む時間を大切にいただけるとよいと思います。

## 学習態度・生活態度の状況